

新型コロナウイルス感染症の拡大

長岡療育園 園長 小西 徹

昨年までの挨拶文では医療福祉制度改革について書いてきました。しかし、今年は新型コロナウイルス感染症の拡大のインパクトが大きく、制度改革は行われているとは思われるが、影が薄い感があります。そこで、本挨拶文は新型コロナウイルス感染症について記すことにします。

本年1月（昨年12月との説もある）に始まった中国武漢発生の新型コロナウイルス感染症、情報規制や管理体制の遅れもあり、多数の中国人旅行者が全世界に流失、そこで感染を広げパンデミック状態を起こしてしまいました。その間、何十万人の中国人旅行者をインバウンドとして受け入れていた日本ですが、この程度の感染者数で抑えられているのは不幸中の幸いではないかと思っています。新型コロナウイルス（COVID-19）は感染力が極めて強く、感染しても無症状や軽症例（8割）から重度の肺炎や致死例まで非常に多彩な病態を示します。そして、高齢者や基礎疾患を有する人では重症化することが指摘されています。長岡療育園の利用者の殆どは当然のことながら重症化する対象に該当します。それでは彼等を守る為は何をすればいいのか？しかし、特殊な施設であるが故に、やれることは厳重な感染防御策などに限られています。感染が拡大し始めた頃から厚労省／県からはコロナ関連の通達が毎日数通届いています（読むだけで30分以上かかる）。その内容は1）我々の様な支援は生活／生命維持には必須であるので自粛や制限することなく継続すること、2）厳重な感染予防を行い安全な支援を、等が主です。4月に入り緊急事態宣言が発令され、行動制限（外出制限）、事業の自粛要請など、日常生活のみならず社会活動にも多大な影響が及んでいます。中でも感染拡大予防には3密（密接、密集、密閉）を避ける・人との距離をとるが重要とされています。しかし、我々の様な施設（医療、看護、介護）では3密を避けることなど全く無理で、3密状態であってはじめて看護、介護が成り立つものと思っています。とにかく感染が発生しないような工夫（マスク、手洗い、器物の消毒など）をしながら頑張るしかないと思っています。

新型コロナウイルスとの闘いは長期戦になることが予想されます（まだまだ第1波、その後第2波、第3波もある？）。今しばらくのご辛抱をお願い致します。この“同心”が発刊される頃までに鎮静化していることを祈っています。

令和2年度 運営方針と事業計画

1. 運営方針

新潟県における重症心身障害児・者の中核施設として、

- (1) 障害者総合支援法の理念に沿い、施設のみならず地域医療・福祉の推進を目指す。
- (2) 医療的レベルの質的向上に努め、各専門領域の組織的統合を目指す。
- (3) 理論的根拠に基づく医療と療育を展開し、利用者の生活の質（QOL）の向上を目指す。

2. 重点項目と事業計画

(1) 感染症対策

ア. 施設内で感染症が発生、流行しないよう対策を行なう。

(2) 人材の確保と育成

ア. 次世代を担う若手職員の採用と育成

イ. OJT、研究、園内外研修、学会発表等で職員のレベルアップを図る。

(3) 施設入所支援の充実

ア. 施設入所者の方に対して、より充実させた個別支援計画を作成し、医療と療育を提供

(4) 在宅重症児者支援、地域支援の充実

ア. 居宅介護、訪問看護、医療型短期入所、緊急入院の推進

イ. 医療的ケア児・者への対応

ウ. 多様な発達障害児者の受入と、多彩なりハビリテーションの提供

エ. 生活介護3事業所の利用数拡大と、地域に即した在宅支援の展開

オ. 重症心身障害児者コーディネーターの育成

(5) 職種、経験年数に応じた仕事内容の再検討

ア. 各職種のラダーを再検討

イ. 看護、介護、療育の質を落とさず、仕事の内容と手順を見直して、働き方改革を推進

(6) 「家族会」および「守る会」との連携を強化し、利用者本位の施設運営を目指す

ア. 「長岡療育園家族会」およびその包括団体である「全国重症心身障害児者を守る会」主催の各種会議や行事・研修会・協議会等に積極的に参加し、連携を強化する。

イ. 「全国重症心身障害児者を守る会」「家族会」の協力のもと、利用者本位の施設運営に努める。

(7) 地域への貢献

ア. 専門分野の講師を招き、地域の方が参加できる発達講座を開催

イ. 巡回療育相談、外来療育教室を定期的実施

ウ. 教員や学生の研修・実習を積極的に受入

エ. 家族や、地域の方も参加できる催しを開催

令和元年度 事業実績概要

当園は、昭和54年に旧重症心身障害児施設として設立されてから、令和元年度で創立40周年を迎えた。入所施設の設立から、通園センター、医療型短期入所、居宅介護、訪問看護、生活介護、発達外来と、在宅サービスの展開も積極的に行ってきた。

今後も、当園の最大の特徴である医療（病院）と療育（福祉施設）という2つの機能を持った施設であるという特徴を活かした事業展開を行っていき、医療と福祉の両機能、入所と在宅のバランスをとりつつ、新潟県の重症心身障害児・者の医療と福祉の中核施設としての責任を担い、新潟県内の重症心身障害児者とそのご家族の日常生活及び社会生活の向上を図る総合的な支援施設としてレベルアップを図っていく。

1. 施設入所支援

(1) 医療的ケアの向上

① 超・準超重症心身障害児者の積極的な受入れ

現在入所者全体の約28%にあたる39名の超・準超重症心身障害児者が入所し、その割合は、確実に増加の傾向にある。これに対応すべく、令和2年度もスタッフの確保と人材育成、医療技術の向上に努めた。

② 緊急入院ベッド（5床）の活用

緊急入院（一般入院）ベッド5床は、ポストNICUベッドとして活用されている。また、在宅重症心身障害児者の急性期疾患や、医療度の高い入所待機者にも対応が可能な病床であり、在宅の重症心身障害児者の緊急的な支援の為に活用を行っている。

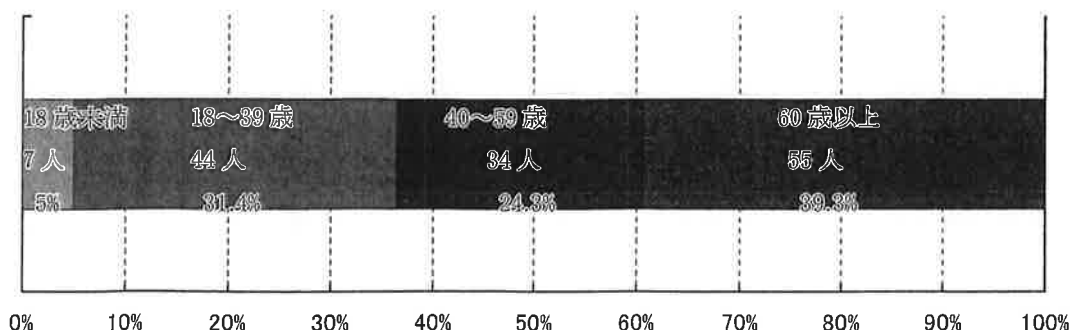
(2) 個別支援計画に沿った医療と療育の実践

入所部門は、平均年齢49歳と高齢化が顕著であり、高齢化にともない入所者の医療度・介護度も高くなってきている。その為1人1人の特性に応じた医療・療育・介護が一層求められてきており、個別支援計画に沿った活動が必要とされている。今後さらに利用者本位の処遇内容となるよう、個別支援計画の充実に努めていく。

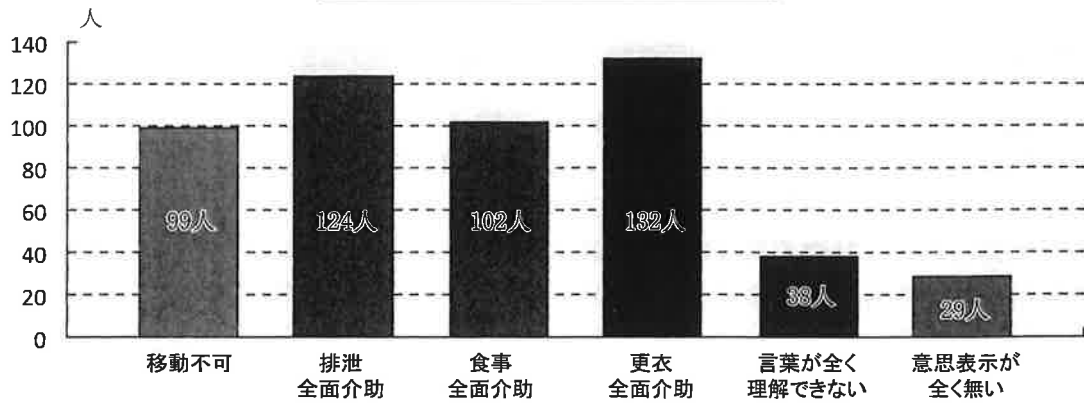
(3) 人材対策

現在、スタッフの確保が施設運営上で1番重要な課題となっている。様々な手法を使い、人材を確保し、OJTや研修によりスタッフのスキルアップを図り、当園を利用している重症心身障害児者のQOLが向上していくように人材の育成をさらに進めていく。

入所者の年齢構成割合



入所者の日常生活の自立度



2. 地域・在宅支援

(1) 外来診察（発達外来、リハビリ）

令和元年度の発達外来利用者数は年間延べ30,859人（126.5人/日）と、前年に比べて延べ利用者数では-2.8%、1日平均利用者数で-1.4人/日の微減となった。

発達外来利用者の内訳は、超・準超重症心身障害児者を含めた重症心身障害、発達障害（精神遅滞、自閉症、ADHD、発達性協調運動障害）、てんかんなど症例も広範にわたっている。また障害児者のリハビリ外来利用者数は、年間延べ19,770人と前年比-10.2%となった。令和元年度は、改元行事で稼働日が少なかった為、例年より利用者数が減少した。

(2) 医療型短期入所20床の利用促進

医療型短期入所事業は、地域の在宅重症心身障害児者の在宅生活を維持するための生命線の事業であり、1日平均利用者数は18.8人（前年比+2.4%）、延べ利用者数は6,868人（前年比+159人）となり、過去最高であった昨年の利用者数より多くの在宅重症心身障害児者の受入れができた。令和2年度も感染症対策を十分に行った上で、令和元年度同様に積極的な受入を行い、地域の重症心身障害児者とご家族のQOL向上を図っていく。

(3) 中越圏域障害者地域生活支援センター事業、計画相談支援の強化

中越圏域障害者地域生活支援センター事業と、相談支援という専門性を有する県の委託事業として、令和元年度の相談件数は、訪問・電話を含め全体で295件、実人数103名と多くの方から相談を受け付けた。また、令和元年度で13年目を迎えた冬期リハビリは、冬期間降雪のためリハビリサービスを受けることが困難な魚沼・十日町在住の利用者に対し、週1回、理学療法士・作業療法士を派遣しリハビリを行うもので、前年同様多くの利用があった。利用者からの要望がある限り、次年度も継続して派遣リハビリを行う予定である。

(4) 通所3事業（本体通園センター、CS魚沼、CS県央）の現状と課題

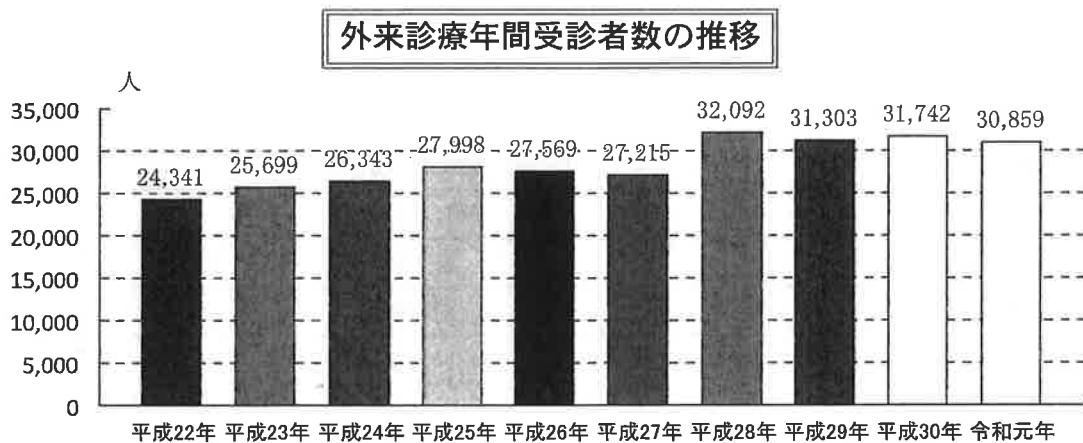
本体の通園センターは、長岡圏域を中心に柏崎や魚沼・県央圏域もカバーしており、成人を対象とした生活介護と、未就学児を対象としたグループ分けを行っている。

令和元年度も、全国の通園センター事業の「老舗」にふさわしく、利用者の発達段階に応じた個別支援計画を基に、他施設のモデルとなるような幅の広い活動を展開してきた。また障害者総合支援法の先駆的事业として平成19年度、魚沼市に開設したケアステーション魚沼、平成20年度、三条市に開設したケアステーション県央、ともに重症心身障害児者に限定した生活介護と一体的に運営している児童発達支援、放課後等デイサービス（いず

れも定員20名/日) 事業を行っている。令和元年度の両ケアステーション利用者数は、年間延べ6,924人も多くの利用者があった。令和2年度は、感染症対策を十分に行ったうえで、魚沼は15人/日を、県央については18人/日を目標に利用拡大に努める。

(5) 居宅介護と訪問看護の推進

在宅系事業については、医療度の高い在宅重症心身障害児者の増加に伴い、需要が高まってきている。居宅介護実施回数は、令和2年度は545回/年(前年度582回)と、安定した需要がある。また、平成29年2月から開始した訪問看護も、徐々に利用者が増えてきており令和元年度で588回/年の利用があった。



(6) 創立40周年事業

創立40周年事業として、創立40周年記念誌「どうしん」の発刊、創立40周年記念式典を開催した。

(7) 全国重症心身障害療育学会学術集会

10月に当園の運営で、ホテルニューオータニ長岡で全国重症心身障害療育学会学術集会を開催した。

3. 安全で安心できる施設を目指して

(1) 防火防災体制の確立

各病棟にて毎月避難・消火の総合訓練を実施するとともに、10月に関連施設や地域住民、消防署等が参加しての総合合同防災訓練および防災講演会を崇徳厚生事業団内にて開催した。

(2) 安全衛生体制の確立

感染対策委員会が中心となり、インフルエンザや、コロナウイルスなど伝染性疾患の園内感染防止、医療機器安全対策委員会による医療機器・医薬品等の安全対策、また事故防止委員会による事故防止等、各種委員会により園内の安全対策に努めた。

(3) 防犯体制の強化

職員研修で、さすまた等の防犯器具の取扱い方法の周知徹底や、防犯・防災時の連絡体制の構築を行った。

◇ 令和元年度 研究発表・論文発表 ◇

園外研究発表

<p>1) 小西 徹 「障害児・者てんかんの診療ー重症心身障害を中心にー」 てんかん治療を考える会 ～いま求められている難治性てんかんの連携を考える～ February 8, 2019 千葉県旭市</p>
<p>2) 小西 徹 「重症心身障害：医療福祉制度の変遷と今後」 石川療育センター 50 周年記念講演会 March 13, 2019 金沢</p>
<p>3) 小西 徹 「障害児・者てんかんの臨床特徴と治療戦略」 小児てんかんセミナー April 18, 2019 松本</p>
<p>4) 小西 徹 「脳の発達と小児てんかん」 中越小児科医会 June 13, 2019 長岡</p>
<p>5) 小西 徹 「障害のある人のてんかん」 日本てんかん協会富山県支部設立 30 周年記念講演 June 22, 2019 富山</p>
<p>6) 小西 徹 「医療的ケア児とは？その対応…」 令和元年長岡療育園発達講座 June 29, 2019 長岡</p>
<p>7) 小西 徹 「重症心身障害児者のてんかん」 全国重症心身障害日中活動支援協議会中部地区研修会 July 20, 2019 安曇野</p>
<p>8) 小西 徹 「障害のある人のてんかん」 第 72 回広島てんかん懇話会 September 7, 2019 広島</p>
<p>9) 内山素子、小西 徹 重症心身障害児（者）におけるてんかん発作の特徴と観察点の検討 第 45 回日本重症心身障害学会 September 20-21, 2019 岡山</p>
<p>10) 大瀧 健、小西 徹 両側期的確視床病変を呈する重症心身障害児者における臨床症状の経年的変化の検討 第 45 回日本重症心身障害学会 September 20-21, 2019 岡山</p>
<p>11) 倉重明美、伊東紀子、仲野知子、小西 徹 視覚障害のある重症心身障害者に対する光トポグラフィー検査を試みて 第 45 回日本重症心身障害学会 September 20-21, 2019 岡山</p>

12) 近藤寛子、小西 徹 むせの軽減を目的とした新たな食事形態の検討 第30回重症心身障害療育学会 October 3-4, 2019 長岡
13) 海藤 愛、小西 徹 異常筋緊張を有する入所者の緊張緩和の原因および対応について 第30回重症心身障害療育学会 October 3-4, 2019 長岡
14) 伊原順子、小西 徹 アトピー型脳性麻痺に対する言語理解を促す試み 第30回重症心身障害療育学会 October 3-4, 2019 長岡
15) 栗原朱美、小西 徹 通所支援施設における超・準超重症児（者）の利用増加と療育活動の留意点 第30回重症心身障害療育学会 October 3-4, 2019 長岡
16) 関 貴子、小西 徹 短期入所を利用する介護者の満足度調査と今後の課題 第30回重症心身障害療育学会 October 3-4, 2019 長岡
17) 渡辺理恵 通所事業者における家族からの相談内容について 第23回全国重症心身障害日中活動支援協議会 October 10-11, 2019 札幌

論文発表

< 2020年 > 小西 徹 医療的ケア児（者）とは？その対応は？ 重症心身障害の療育 15（1）：7-10, 2020
< 2019年 > 小西 徹 重症心身障害児者の在宅支援：新潟県中越における現状と課題 新潟県小児科医会会報 No63：3-6, 2019

～園内研究～

1) 諸橋佳奈 高橋佳代子 中村亨子 関根伸子 小林諭司 横山恵子 橋本奈津美
栗原朱美 坂井 剛
ケアステーション県央 療育活動実施時の支援方法について

2) 西 綾子 諸橋龍樹 伊藤可奈恵 石田美枝子 高岳恵二
医療的ケア児の保育園利用について

3) 桑原真美子 佐藤翔太 辰口美希 伊部絵里 前田美由紀 伊藤哲也
3病棟入所者におけるBMIと体調不良の関係について

4) 近藤佳代子 中山悦子 板垣さい子 佐藤幸男 小宮貴恵 関 由香 村井智美
山岸祥子 佐藤文香 大野みゆき 小川景子 江口 亘 高橋のぞみ 矢澤礼子
ムーブメント活動を利用し個々の発達を促す

5) 中村政浩 吉田智子 米山恵理香 小林ゆかり 大山奈緒美
長岡療育園における重症心身障害児者の悪性腫瘍の発症例と傾向

6) 先名良孝 畔原 茜 倉石美奈 長谷川愛 星名 昇
当園の高齢者のてんかんについて

7) 西脇恵美 桐山和子
当園の脳波検査をした外来患者のてんかんの分類と治療経過

8) 大嶋さよ子
重症児の家族が望む在宅移行支援のありかたを考える

9) 阿久津太陽 高橋裕子 坪谷梨英 長坂 優 夏目ゆりか 長谷川愛 小林まどか
短期入所利用者における医療ケアの推移

10) 佐藤昌子 田村美智子 山澤良治 渡辺理恵 関 愛 宮内建行 榎本武史 若林和幸
黒島順子 水落貴子 小林友子
ケアステーション魚沼の送迎サービスの推移